

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02461

研究課題名（和文）近代日本の大学における歴史研究・教育体制と学術行政

研究課題名（英文）Historical Research/Education System and Academic Administration in Modern Japanese Universities

研究代表者

奈須 恵子（Nasu, Keiko）

立教大学・文学部・教授

研究者番号：80287557

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：近代日本の大学における歴史学の制度化に関して、史学科、史学関係講座、史学関係科目の設置・人員・カリキュラムの展開と教育・学術行政の関連性に着目し、国立公文書館所蔵の戦前の各大学の設置認可・学則改正の審査資料などを中心に収集、分析をおこなった。その成果は、研究分担者それぞれの専門とする近代日本法制史学、日本中世史学、西洋中世史学に即した研究として展開し、近代日本における歴史学の制度化プロセスを解明する小澤実、佐藤雄基編『史学科の比較史』刊行などの形で結実した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代日本の大学における歴史学の制度化に関して、個別の大学の事例研究を進捗させるものであると同時に、戦前の官立、公立、私立大学に関する大学横断的な研究として取り組んだ点で学術的意義を有するものとする。加えて、大学における歴史学研究・教育活動と、中等教育段階の歴史教育実践の担い手となる歴史教員養成の結びつきという、戦前から今日に至るまで続く実践的課題への着目と検討に進み始めた意義も少なからず存在している。

研究成果の概要（英文）：Regarding the institutionalization of history in modern Japanese universities, we focused on the relationship between history departments, history-related courses, establishment of history-related subjects, personnel, curriculum development, and education and academic administration. We mainly collected and analyzed materials such as review materials for university establishment approval and revision of school regulations. The results are developed as research in line with the fields of modern Japanese legal history, Japanese medieval history, and Western medieval history, which are the specialties of each of the research co-investigators. It came to fruition in the form of the publication of Minoru Ozawa and Yuki Sato(ed.) Shigakka no Hikakushi, 2022.

研究分野：教育史

キーワード：学問史 学術行政 大学史 史学史 教育史

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景には、近代的な諸学問が大きな転換点を迎つつある現在、近代学問をその出発点に遡って再検討しようとする「学史」研究が隆盛しつつある学術状況がある。その一例として、歴史学の分野においても「史学史」研究が盛んになっている。だが、従来の史学史研究は代表的な歴史家の著作の分析、思想的なアプローチが軸であった(永原慶二『20世紀日本の歴史学』など)。そのため歴史学の展開が歴史研究者の集団内部で完結したもののよう描かれる一方、一般的な社会情勢・政治情勢が時代背景として語られるにとどまる傾向があった。

本研究では、歴史家を再生産する大学(史学科)という制度に注目する。近代学問の特徴は、大学という制度を通じて、アマチュアリズムと厳然と区別された「専門知」としてオーソライズされた点にあり、そこに近代国家の学術行政が深く関わっていると想定されるからである。すなわち、大学における研究・教育体制は、設置認可や資格認定あるいは補助金などを通じて、教育行政(文部省)の影響下にあった。大学改革によって近代的な大学の諸制度が大きな変容を遂げつつある現在、近代学問の「学史」が、各学問分野の専門家集団によるアイデンティティの再確認にとどまらず、近代学問を根底から再検討するものになるためにも、大学という教育・研究組織を軸に、教育行政・政治社会との関わりを捉える必要があると考える。大学における歴史学関連の教育研究体制を素材にして、近代学問の成立における学問内在的な側面と学術行政・大学制度による外在的な側面とを明らかにし、学問の成り立ちにおける「制度」のもつ役割を明らかにしようと考えたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代日本(戦前)における史学科のみならず、各学部の史学関係講座(たとえば「法学部の法制史」や「経済学部の経済史」)を検討対象に含め、近代学問における歴史研究の位置づけについて、大学の研究・教育体制という教育制度的な観点からアプローチすることにある。より具体的な目的は以下の三点となる。

(1)近代日本の大学における史学科および各学部史学関係講座の設置・人員・カリキュラムについて、政府(文部省)による設置認可・資格認定および補助金など教育・学術行政との関連性を解明する。

(2)教育・学術行政による学問の枠組みが、各学問内部の固有の論理と如何なる関連性をもつのかを解明する。具体的には、各分野の概論(たとえば、法学部の法学概論など)における歴史研究の位置づけを分析し、1.で明らかにした教育・学術行政による枠組みとの相互関係を明らかにする。

(3)帝国大学および大学令による大学など、官公私立大学における歴史研究・教育体制の特徴を明らかにして幾つかの類型を打ちだすとともに、同時代の欧米(特にドイツ・アメリカ)の大学における歴史研究・教育体制との国際比較を行うことで、日本の大学・近代学問の特徴を学術・教育制度史的な観点から明らかにする。

3. 研究の方法

(1)戦前期(特に1920年代・30年代)を中心に、国立公文書館所蔵の文部省関係簿冊を中心

にして、各大学の設置認可・学則改正の審査・中等学校教員や高等学校高等科教員の無試験検定指定の認定に関わる史料を蒐集・調査する。また、各大学の大学史出版物・アーカイブズ資料を蒐集・調査し、各大学における史学科や史学関係講座(たとえば法学部の法制史)の設置・人員・カリキュラムに関する基礎情報を蓄積する。その上で、文部省による学術行政(審査・認定)が各大学の歴史研究・教育体制に及ぼした影響を検討する。

(2) 戦前に出版された史学概論および社会科学系諸学問の概論に関する著作・教科書・講義録の類を蒐集・調査する。その上で、(1)の研究成果と合わせて、文部省による学術行政による要請と、諸学問における歴史的研究の内在的な必要性との、相互関係を検討する。

(3) 19世紀~20世紀前半の海外(主に欧米)の大学における史学科・史学関係講座との比較によって、近代日本の大学における史学科・史学関係講座の特徴を解明する

(1)~(3)の目的を達成するために、教育史を専門とする研究代表者の奈須が全体を統括し、4名の分担者がそれぞれ担当し、研究会などを開催する。(1)は、本研究の中心でもあるため、分担者の佐藤雄基(日本中世史・史学史)が奈須とともにこれを統括し、国内他大学史学科との比較に向けた基礎データ抽出を目指す。

(2)については、法学部法制史の学史研究を進めている分担者の神野潔(日本法制史)が統括し、各分野の学史研究者を招待して研究会を開催するとともに、事例調査と比較研究を深めていく。文学部歴史学の史学概論については佐藤、教育史については奈須が協力する。

(3)については、日本の歴史学への西洋学の影響について調査を進める分担者の小澤実(西洋中世史・史学史)が統括し、欧米との比較調査を行う。アメリカについては、イェール大学の調査を行っている佐藤が協力する。

4. 研究成果

本研究は3年計画だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、期間延長を行って4年で完了した。

1年目

本年度は、以下の3つの項目について調査を進捗させることができた。

(1) 近代日本の大学における史学科、各学部の史学関係講座、史学関係科目の設置・人員・カリキュラムとその展開と教育・学術行政の関連性の解明のため、国立公文書館所蔵の文部省関係簿冊のうち特に1920年代~30年代を中心として、官立・公立・私立各大学の設置認可・学則改正の審査・中等学校教員の無試験検定指定の認定に関わる資料の調査・収集を進め、上記の設置・人員・カリキュラムに関する基礎情報の蓄積につとめた。また、人員・カリキュラムの展開に関しては、当時刊行されていた各大学一覧も重要な手がかりとなるため、国立公文書館デジタルアーカイブ資料や、古書購入による資料収集も進めた。

(2) 上記(1)(教育・学術行政による制度的枠組みづくり)と下記(3)(当該学問の歴史的意義をどのように表明していくのかという、学問史にあらわれた各学問内部の固有の論理の説明とその変容)の関連性の解明に関わって、公益財団法人野間教育研究所図書室所蔵の大学沿革史コレクションの調査を行い、戦前期に史学科及び史学関係講座を設置した大学の沿革史において、これらの設置や展開に関する記述の資料収集・調査を進めた。

(3) 各学問分野の歴史研究の位置づけや役割(とその変容)について、研究分担者それぞれの専門とする近代日本法制史学、日本中世史学、西洋中世史学に即しつつ、研究を進めた。2019年度に開催した研究会では、研究分担者神野潔による近代日本法制史学に関する研究報告と意見交換を行った。

2年目

コロナ流行のために出張をとまなう調査・学会参加を行うことができなかったが、刊本やデータベース・デジタルアーカイブズなどを利用して、できる作業を進めた。また、過去の研究文献の調査・再検討などに時間を充てた。以下の3つの項目について調査を進捗させた。

(1)近代日本の大学における史学科、各学部の史学関係講座、史学関係科目の設置・人員・カリキュラムとその展開と教育・学術行政の関連性の解明のため、前年度(2019年度)に資料収集を行った1920年代～30年代を中心とした国立公文書館所蔵の文部省関係簿冊の官立・公立・私立各大学の設置認可・学則改正の審査・中等学校教員の無試験検定指定の認定に関わる資料の基礎情報の分析作業を進めた。また、前年度に資料収集を行った公益財団法人野間教育研究所図書室所蔵の大学沿革史コレクションを手がかりとして、戦前期に設置された史学科及び史学関係講座についての分析作業も行った。

(2)人員・カリキュラム展開の精査に必要となる、各大学で毎年度発行されていた大学一覧について、古書購入による資料収集をさらに進めた。収集にあたっては、史学科や史学関係講座、史学関係科目を設置していた、戦前期の大学令による大学(京都帝国大学などの帝国大学、東京商科大学などの官立大学、公立大学であった大阪商科大学)のみならず、高等師範学校(東京高等師範学校、広島高等師範学校)の一覧の収集も行った。

(3)各学問分野の歴史研究の位置づけや役割(とその変容)について、研究分担者それぞれの専門とする近代日本法制史学、日本中世史学、西洋中世史学在即しつつ、研究を進めた。これらの研究の展開を踏まえて、本来であれば研究代表者・研究分担者以外のメンバーも招いて研究会を開催することを予定していたが、2020年度については、研究代表者・研究分担者間での、調査・分析の進捗状況を情報共有する形での数回の遠隔会議(オンライン会議)を開催するにとどまった。

3年目

主に以下の3つの項目について調査を進捗させた。

(1)近代日本の大学における史学科、各学部の史学関係講座、史学関係科目の設置・人員・カリキュラムとその展開と教育・学術行政の関連性の解明については、前々年度、前年度に収集した国立公文書館所蔵の官立・公立・私立各大学の設置認可・学則改正の審査に関する文部省関係簿冊、中等学校教員の「歴史」科の無試験検定指定の認定に関わる資料の継続的な分析作業に加えて、デジタル化されてアクセス可能な資料を中心に収集、分析も行った。あわせて、前年度に古書購入による収集を進めた戦前の大学一覧に関する分析にも着手した。

(2)各学問分野の歴史研究の位置づけや役割(とその変容)について、研究分担者それぞれの専門とする近代日本法制史学、日本中世史学、西洋中世史学在即しつつ、研究を進めた。その中で、研究分担者の佐藤雄基が編者となった近代日本の史学史研究に関する研究書(『明治が歴史になったとき』)の合評会(オンライン)を開催し、合評会の議論を踏まえて、『史苑』82巻1号に特集「『明治が歴史になったとき』を読む」を組み、豊田雅幸・寺尾美保・前田亮介の各氏に論考を寄稿していただいた。また、研究分担者の神野潔を代表者とする東京理科大学の大学史懇談会(オンライン開催)に、本研究の研究代表者・研究分担者が参加し、史学史研究、大学史研究に関わる意見交換及び情報交換を行った。

(3)研究分担者の佐藤雄基が英国(連合王国)での在学研究において、ケンブリッジを拠点として研究に従事し、ケンブリッジをはじめとする英国の大学における歴史学科に関する資料の

収集を進めた。

4年目

主に以下の3項目である。

(1) 研究期間全体にわたり、近代日本の大学における歴史学の制度化に関して、史学科、史学関係講座、史学関係科目の設置・人員・カリキュラムの展開と教育・学術行政の関連性に着目し、国立公文書館所蔵の官立・公立・私立各大学の設置認可・学則改正の審査に関する文部省関係簿冊、デジタル化されてアクセス可能な資料、戦前の各大学一覧を中心に収集を進め、分析も行った。当初予定していたすべての戦前における大学ごとかつ時系列のデータベースの作成までには至らなかったが、研究分担者による個別の大学の事例研究という形での研究成果につなげていくことができた。

(2) 各学問分野の歴史研究の位置づけや役割とその変容について、研究分担者それぞれの専門とする近代日本法制史学、日本中世史学、西洋中世史学に即しつつ、研究を進めた。2020年度の研究分担者佐藤雄基編『明治が歴史になったとき』の刊行と、2021年度のその合評会(オンライン)の実施、さらに2022年度には研究分担者小澤実、佐藤雄基編『史学科の比較史』を刊行した。同書は敗戦前までの帝国大学、植民地・外地の大学、官立大学、私立大学における史学科・史学研究機関の歴史に着目し、近代日本における歴史学の制度化のプロセスを解明する研究成果となった。

(3) 上記の研究を通して、大学における歴史学研究・教育活動と、中等教育段階の歴史教育実践の担い手となる歴史教員の養成の結びつきへの着目と検討という、新たな問題関心へと発展した。佐藤雄基が所長をつとめる立教大学日本学研究所主催の公開シンポジウム(「はじめての日本史探究 歴史教育と歴史学の幸せな関係を求めて」2023年3月)に、本研究も共催として参加し、現在の日本の大学における歴史学と高等学校における歴史教育の実践的課題について意見交換をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 佐藤雄基	4. 巻 20
2. 論文標題 卒業論文題目からみた近代歴史学の歩み : 東京帝国大学国史学科1905 - 1944の事例報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学日本学研究所年報	6. 最初と最後の頁 49-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小澤実	4. 巻 20
2. 論文標題 かくて円環は閉じる -- 谷口幸男の翻訳活動と戦後日本の北欧中世研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学日本学研究所年報	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 神野潔	4. 巻 70
2. 論文標題 明治期における日本法制史学の展開図	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法制史研究	6. 最初と最後の頁 131-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 神野潔	4. 巻 24 (3)
2. 論文標題 女性法曹の誕生と三淵嘉子	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人権のひろば	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雄基	4. 巻 82(1)
2. 論文標題 『明治が歴史になったとき』の意図と達成：特集の序文として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 165-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 81(2)
2. 論文標題 序(特集：今を映すもう一つの歴史記述：偽史・オカルト・歴史実践)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 81(2)
2. 論文標題 【書評】オカルト・学知・第三帝国：カーター『SS先史遺産研究所アーネンエルベ』の周辺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小澤実	4. 巻 81(2)
2. 論文標題 歴史実践をさかなでに読む：偽史・オカルト・歴史実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 102-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場隆弘、小澤実	4. 巻 52 (15)
2. 論文標題 文書をめぐる冒険 - 古文書・偽文書・公文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雄基	4. 巻 19
2. 論文標題 朝河貫一と1908年の国際日本学：朝河貫一著「なぜ、どのようにして、アメリカにおける利を活かして日本史を学ぶのか」訳注と解題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学日本学研究所年報	6. 最初と最後の頁 51-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神野潔	4. 巻 69 (1)
2. 論文標題 東京時代の三浦周行 - 法学協会雑誌と新民法と -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝林	6. 最初と最後の頁 184 - 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雄基	4. 巻 79(2)
2. 論文標題 日本中世史は何の役に立つのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤雄基	4. 巻 688
2. 論文標題 勝俣鎮夫『一揆』を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐藤雄基
2. 発表標題 『明治が歴史になったとき』の意図と達成
3. 学会等名 『明治が歴史になったとき：史学史としての大久保利謙』合評会 (「グローバルヒストリーのなかの近代歴史学」第15回研究会) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小澤実
2. 発表標題 執筆者からのリプライ
3. 学会等名 『明治が歴史になったとき：史学史としての大久保利謙』合評会 (「グローバルヒストリーのなかの近代歴史学」第15回研究会) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤雄基
2. 発表標題 大学史と学問史をつなげる；立教学院史の文学部関係の記述を執筆した経験から
3. 学会等名 東京理科大学 大学史懇談会第3回例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈須恵子
2. 発表標題 立教大学立教学院史資料センターとその取り組み：戦時下立教学院史研究を中心に
3. 学会等名 東京理科大学 大学史懇談会第3回例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤雄基
2. 発表標題 朝河貫一は日本封建制論の有用性をどのように主張したのか 20世紀初頭の議論を中心に
3. 学会等名 朝河貫一研究会第117回例会（共催：「グローバルヒストリーのなかの近代歴史学」研究会第14回例会）ZOOM開催（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤雄基
2. 発表標題 「成文法・長期持続・歴史的重層 - 『概説日本法制史』の前近代部分に対する書評 - 」
3. 学会等名 法制史学会近畿部会 4月例会（2019年4月20日、於京都大学吉田キャンパス）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Ozawa
2. 発表標題 “ The Paul Lemerle Library (Rikkyo) in Postwar Japanese Byzantine Studies ”
3. 学会等名 Symposium: Historiographical Approach in Byzantine Studies: France and Japan (2019/10/18@Rikkyo University)（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤実
2. 発表標題 「ヴァイキングでまち興し：英国ヨーク市のJorvik Viking Festival」
3. 学会等名 パブリックヒストリー研究会第5回公開研究会（2019年12月14日、於立教大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神野潔
2. 発表標題 「明治期における日本法制史学の展開図」
3. 学会等名 法制史学会第71回総会（2019年6月8日、於神戸学院大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyoshi Jinno
2. 発表標題 "Kishin Donation to Buddhist Temples and Shinto Shrines in Medieval Japan: Legal and Social Perspectives"
3. 学会等名 Joint Symposium by Asia Research Institute, National University of Singapore, and Toyo Bunko, Japan (2020/2/12@National University of Singapore) (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 佐藤雄基、小澤実、近藤成一、上島享、柳原敏昭、山口輝臣、永島広紀、夏目琢史・石田雅春・廣木尚・堀和孝・坂口太郎・藤田大誠	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 601
3. 書名 史学科の比較史：歴史学の制度化と近代日本	

1. 著者名 佐藤 雄基、松沢 裕作、松田 宏一郎、箱石 大、マーガレット・メール、小澤 実、今井 修、松田 好史、葦名 ふみ、大島 明秀、小田部 雄次	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 明治が歴史になったとき：史学史としての大久保利謙	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 雄基 (Sato Yuki) (00726573)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	神野 潔 (Jinno Kiyoshi) (40409272)	東京理科大学・教養教育研究院神楽坂キャンパス教養部・教授 (32660)	
研究分担者	小澤 実 (Ozawa Minoru) (90467259)	立教大学・文学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------